

else if 文

If 文を使い複雑な条件分岐をする場合、多くの&&演算子 | | を使わずに書く方法があります。

それが else if 文です。使い方を見ていきましょう。

▲else if について

else if 文は if 文で条件を満たされず、かつ else if 文の条件を満たすときに実行されます。

- サンプルプログラム

```
#include<stdio.h>
int main(void) {
    int n;
    scanf("%d", &n);
    if (n >= 100) {
        printf("入力した値は100以上です。¥n");
    }
    else if (n >= 10) {
        printf("入力した値は10以上100未満です。¥n");
    }
    else {
        printf("入力した値は10未満です。¥n");
    }
    return 0;
}
```

これは値が (1) 100以上 (2) 10以上100未満 (3) 10未満の三通りに判別するプログラムです。これを if 文だけなら&&演算子を多く用いることになり手間がかかります。複雑な条件分岐を作っていくときには積極的に else if 文を活用していきましょう。

▲問題

突然ですが、T 上君の今日の夕食は麺パワーと野菜パワーによって決まります。麺パワーと野菜パワーを入力し、下記の条件に沿って夕食をシミュレートしてみましょう。

まず、麺パワーかつ野菜パワーが 0 の時、「もう寝るわ。」と言います。

次に麺パワーが 0 より大きい正の数の場合、

- (1) 野菜パワーが 0 より大きい正の数時、「戦闘力 n のラーメン」となります。この n は麺パワーと野菜パワーを掛けた値です。
- (2) 野菜パワーが 0 以下の時、「麺マシ戦闘力 n のラーメン」となります。この n は麺パワーを平方数です。

そして麺パワーが 0 以下の場合、

- (1) 野菜パワーが 100 以上の時、「もやしを食らう」となります。また、50 以上の時、「野菜炒め」となります。
- (2) 野菜パワーが 50 未満の時「辛さ n のマーボー」となります。この n は麺パワーと野菜パワーを合計した絶対値です。